令和元年度

11/2～11/3

新村文化祭・福祉ひろば祭り開催！

さあ踏み出そう！令和の秋（とき）

新村の人口・世帯数
令和元年11月1日現在
人　口　3,211人
世帯数　1,307世帯

2日（土）3日（日）の爽やかな晩秋の両日、文化祭、福祉ひろば祭りが、開催されて大勢の皆さんが見学に訪れました。

新元号「令和」を迎え「さあ踏み出そう！令和の秋（とき）」とのテーマを設け、積極的に集い学び合っていこうとの思いが込められました。

また、サブテーマの「学ぼう新村！知ろう新村」に添ってお伽噺ものぐさ太郎の実像を探る講演会や、新村出身者である西原比呂志画伯の特別展示会が開催されました。

閉会式では「これを機に、もっと新村を学び、郷土の先人たちの業績を後世に伝え残す事業も大切」と関公民館長が締めくくりました。

歌い続けました。
新村コーラス15周年

西部劇「黄色いリボン」？を思い起こす
芝小金管バンド

ドローンで撮ったの？
高綱中吹奏楽部

松大吹奏楽部の演奏♪

ハーモニックCの演奏♪

♪ハワイアンのリズムに
のって…ロコマイカイ♪

数多くの作品が寄せられました
群がるクトンボ

文化祭特別講演「物くさ太郎」はだれか

文化祭の初日、歴史民俗学研究者の浜野安則氏が講演され、約60名が耳を傾けました。

今から、約五百年前のお伽草子の中にある「物くさ太郎」には、モデルとなる人物が存在していたという興味深いお話でした。そして各地のものぐさ太郎にまつわる説話を推論すると、小笠原氏の居城を洪水から守る多賀神社（後には太郎と縁のある神社と言われる）を造営したこと。また信濃守護として京都と府中（松本）を往来する立場の人物で、京都では古き作法を習得している家として、馬術の師範、礼法、歌道に通じている家柄であること。そして、太郎の行いが次の小笠原三代（十代長秀、十一代正康、十二代持長）の生き様に似通っていること。更に小笠原氏は清和源氏の子孫で天皇家に連なること。これらから推定し、小笠原氏の長秀、正康、持長がモデルであるとした。研究者それぞれに説はあるとのことですが納得する内容でした。

画家 西原比呂志 作品展示開かれる

文化祭の特別企画として西原画伯の作品が公民館ホールに展示されました。画伯は「第二紀会」という個性的な美術団体に属して活躍しましたが、童画家としても有名で、ほのぼのした作品が幾つも展示されていました。また氏は故郷への想いも強く、新村音頭の作詞や、小中学校・公民館へ油絵の大作を寄贈されています。

※今回の作品展示に際し「かしわや」さんからご協力をいただきました。

ホッコリする作品が陳列されました。

後世に伝えて

9月29日（日）29回目を迎えた「ものぐさ太郎祭り」が開催されました。

当日は、小学生による太郎像への献花のあと、新村コーラスによる「物臭太郎」「故郷」の合唱、「ものぐさ太郎音頭有志の会」による「ものぐさ太郎音頭」の踊りが披露されました。

来年は、30回を迎えます。新の郷に伝承されてきた「ものぐさ太郎」を新村地区住民の誇りとして、長く後世に伝えたいと感じました。

ものぐさ太郎を讃えます。

新の里ウォークラリー 今年もにぎやかに

10月5日（土）さわやかな秋空の下、述べ80名の参加者で行われました。小学生と親御さんで作った7つの班に松大生も加わり6つのポイントに設定された問題を、相談しながら答案用紙に記入していました。

今回は初めて、芝沢小学校まで足を延ばして、校庭北側の松林の中を進み、高さ約3mの芝沢土手跡を登りました。新村と和田の境を安塚から東新へと流れている芝沢川は600年の昔からこの地域を潤していた天井川であることも学びました。

朝9時に出発して約2時間強の行程でした。心地よい汗をかいたあとは福祉ひろば職員と、ものぐさ大学理事の方々が作られたカレーライスをおいしく食べ、答え合わせをして、景品が配られ閉会となりました。

天井川を実感しました。芝沢土手

答え合わせ。何点かな？

初優勝！ソフトバレー

11月3日（日）第36回市長杯争奪球技大会が行われ、ソフトバレーの部で初優勝を飾りました。おめでとうございます。その他の種目では卓球がベスト8でした。選手の皆様お疲れさまでした。